醫師の立場より觀たる幼稚園と幼兒の傳染病

醫學博士　島　信

一

所謂三つ兒の魂百迄にて幼兒の保育に就ては非常に注意しなければならない事は今更多言を要しない。家庭に於て充分敎養が行屆けば結構であるが、多くは其環境は常に大人相手であつて同年輩の友達と共同生活を營む機會を與へることが困難である。此の同年輩の者共が共同生活を營むことは無邪氣に喜戲する間にも各自の能力は發揮され年相應の友の行動を模倣し、互に誘掖切瑳琢磨され其間我儘は自然と壓へられる事に於て非常に有益である。然し巷間に幼兒のみ集まりて遊び監督者なき時は屢々惡戲に傾き易く、殊に年長兒が仲間入して居る場合に於ては危險で、時に弊害のあるものである。上流の家庭に於て屢々認められる如く保姆を雇ひ幼兒の敎養に努めて居る所では、敎育の點は完全であるが此の同年輩の友達の無き事が缺點で、智に偏り所謂マセたり、或は甘やかされて我儘となり、自我强く一人天下と成り勝である。家庭の敎養が怠られ自由に友を撰び勝手に遊ばして居る樣な家庭の兒では何事を

も自らする良習は得られるが、粗暴野卑となり惡賢くなり易きもので、何れも一長一短である。幼稚園は同年輩の者を多數集めて共同生活を營まし專門の監督者ありて各自の長を延ばし短を補ひ惡習を矯正する所であるから、精神機能の發揮し始める幼兒の保育には缺く可からざるもので、家庭の敎養と相俟て幼兒保育を完全にする唯一の機關で、人間一生の根本となる幼兒の保育上必要なものである。

二

然るに一方幼兒は傳染病に對し非常に鋭敏である。卽ち小兒は生れた時は母體から種々疾病に對する免疫體を與へられて居り生後は多少母乳を介して供給され、爲めに生後六ヶ月位の間は一二の例外はあるが殆ど傳染病には罹患しないのである。然るに此の免疫は自分の體が作つたものではなく出來たものを母親から、供給されたものであるから早晩乳兒の體內から消失し自分の體からは未だ其生産能力がなく、從つて滿一年頃は殆ど免疫體の缺如した抵抗力の弱い一番危險期である。從て一年前後が傳染病例へば痲疹の死亡率が一番多いものである。其後は免疫體の生産が盛になり徐々に體內に自然免疫體が存在する樣になり、年齡を增すに從ひ傳染病に罹り惡くなるものであるが、十歲以下の小兒は尙非常に罹り易い。幼兒は主として家庭內に生活する爲め傳染病に接する機會が殆どなき爲め罹患することは少いが、幼稚園に通ふ樣になれば玆に傳染の機會が開け、往復の電車內にて感染することもあり、幼稚園內にて、感染することも非常に多い。通園の途中で感染の機會なきことが明かで傳染病に罹患した例もあ

り、其他幼稚園にて感染したとより思はれない場合に屢々相遇するものである。一般家庭に於ける衛生思想傳染病に關する智識の發達して居らぬ我國の現狀では、幼稚園は宛も傳染病媒介所の如き感があるのである。

三

又屢々相遇する事實は幼稚園に通ふ小兒が傳染病に感染し其兒は抵抗力の强き爲め輕微で濟むが、家庭に於て更に抵抗力の最も弱い傳染病に對し最も危險期に在る一二歲の弟妹に感染させ不幸の轉機を取ることである。百日咳麻疹に於て此の事は屢々認められる。從て幼稚園が幼兒保育を完成する唯一の最良機關であるに不拘、傳染病に就て考慮する時は幼稚園に通はせることは賛成出來兼ねるので私は常に幼稚園に入園せしむべきか否かの相談を受けた場合には、多くは否定して居るのである。其小兒が一人兒であるか長子であつて、健康な者或は同朋が多數あつても其兒の性質上或は家庭の事情によつて、同年輩の者と遊ばせる必要を認めた時に初めて幼稚園に入れることを進める方針を取て居る。小兒は年齡增加に從ひ抵抗力を增し傳染病に罹患しても其危險率は少くなるものであるから幼兒は出來るだけ感染の機會の無い樣にしてやることが必要である。それで殊に虛弱な小兒であれば幼稚園は嚴禁し小學校へ行く迄の二年間を傳染の機會から避けさせて、强壯にする樣專ら體育に心懸けさせる樣に仕て居る次第である。

四

然らば此の有益なる幼稚園を傳染病の媒介所たらしめない様にする方法は如何。此れは傳染の機會を無くせば良いのであるから其根源である傳染病患者を通園せしめず、疑はしき小兒は全く傳染の憂なき事が確實になる迄は通園を禁じ、各自に於ては感染せぬ様豫防すればよいのである。これは至極簡單に思はれるが實際に於ては非常に困難である。家庭及幼稚園當事者の周到な注意と豫防知識の普及とによつて初めて完成されるのである。多くの傳染病は先づ熱を以て始まり、百日咳は輕微な嗽咳で始まるから、家庭に於ては少しでも熱があつたり咳嗽が出たりする場合には、幼稚園を休ませて其經過を見て健康になり初めて登園せしむべく、傳染病に罹患したるときは醫師が傳染の憂なき事を斷言する迄は登園を差控ねばならない。一方幼稚園に於ては口腔及手の衞生に留意し含嗽、洗手を時々行はせ、尚醫師をして口腔の檢査其他簡單な檢診を時々行はせ、病人の有無を絶えず檢し、保姆は其受持幼兒の狀態に常に留意して患兒があれば早く此を見出して處分する樣に心懸けることが必要である。

五

傳染病に就ての智識は傳染病豫防上最も必要な事であるから、玆に普通に見られる幼兒の傳染病に就て略述して參考に資し度い。（以下次號）